

真実を重心にしているものは迷わない

以前、或るご門徒さんのご夫婦の家庭で、次のようなことが起りました。

このご夫婦は結婚後、何年も子宝に恵まれませんでした。念願かなってやっと一子をもうけることができました。その喜びがどれ程のものであったかは、想像に難くはないでしょう。

しかし、奥さんは、子供が成長するにつれ、だんだんと思い通りに育てることができなくなり、悩むようになりました。

悩んでいるとき、ある同級生のお母さんと知り合いになりました。ところが、この同級生のお母さんは新興宗教の信者でした。

この信者のお母さんは学校のPTAの役員になっており、信者を獲得するために、同じ年頃の子供を持つ親として、彼女の相談に乗ってきたのです。

余りに親切に相談に乗ってくれたことと、入信したなら子育ても順調になるというようなことを言われ、とうとう入信してしまいました。

ところが、かえって御主人との仲も悪くなり、新興宗教の幹部からは家族すら入信させられないのかと責められ、ましてや、子育ての悩みも変わらず、以前よりも苦悩が深まるばかりとなってしまいました。

ました。

そこで、奥さんもやっと目が覚めたのでしよう。思い通りにならない人生を、無理やり思い通りにしようとして、かえって、益々深い迷いの中に落ち込むところだったと気付いたのでした。

思い通りにならない人生を生きるしかない私であるからこそ、その苦悩の私を支え救わずにはおかないと、常に働いて下さっている真実の如来様がいらっしゃるのです。

その真実に立脚して生かされたなら、もう迷うことはありません。

